

# 紹介

## 高校生への情報モラル・セキュリティはこうして伝えよう ～IPA情報セキュリティ標語・ポスター・4コマ漫画コンクール～

独立行政法人情報処理推進機構(IPA) 石田 淳一

### 1. コンクールを通して学んだ生徒たち

今年で第8回を数えるIPA情報セキュリティ標語・ポスター・4コマ漫画コンクールは、文部科学省、経済産業省、警察庁を始め、全国都道府県教育委員会連合会、全国市町村教育委員会連合会からも後援をいただき<sup>注</sup>、「携帯電話（スマートフォン）」「パスワード」「個人情報」「ルール」などをテーマに作品を募集いたしました。

これまでで最多の27,946作品の応募があった今回は、児童・生徒のみなさんが真剣に考え表現した良い作品が多かったように感じます。子どもらしい視点で情報モラル・セキュリティを捉えているものや、大人もハッとさせられる表現などもあり、私どもも大いに感心させられました。

入賞した作品は特に独創性が高く、力強いメッセージを伝えてくるものとなっていますので、ここでご覧いただきましょう。

では、作品を応募した子どもたちは、その制作

過程において何を学んだのでしょうか。単に作品の構成を考え、表現するという作業だけにとどまらず、自分たちのインターネット使用状況に照らし合わせて危険性を感じ、どう対策していくべきかを考えたことにより、心構えに変化が生じていることが子どもたちの生の声から読み取れます。制作に取り組んだ後の感想をいくつかご紹介いたします。

- ・知らない人に情報を知られていると思うと怖いので、情報については取捨選択していきたい。
- ・他人事じゃないんだなと思ったし、これからも気を付けようと思った。
- ・普段普通に見ているサイトでも、一歩間違えれば被害者にも加害者にもなるんだなと思いました。
- ・個人情報が流出しないように気を付けてパソコンを使いたいと思った。
- ・インターネットの掲示板は面白いけど、言葉一つで大変な問題になることがわかりました。

普段の行動パターンの一つとして生活に組み込まれているインターネット接続は、使い方を間違えると非常に危険なものになる、ということを伝えることができ、とても嬉しく思います。

### 2. コンクールを情報教育のツールとして使う

次に、本コンクールに応募した学校の先生方は、どのような工夫を施して生徒の取り組みを促したのかをご紹介します。

#### (1) マインドマップとディスカッション

茨城県 清真学園高等学校

マインドマップ(図2)を使った「発想を形にする取り組み」を生徒にさせたかったこと、また、その次の單元である「インターネットは何を変えたのか」に関する導入にもつながると考え、応募に至りました。

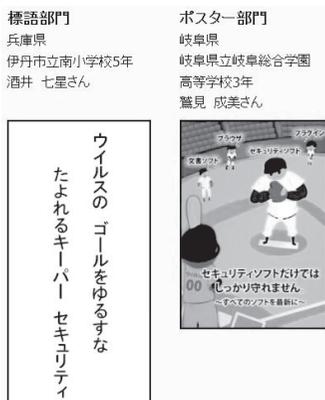


図1 最優秀賞作品(標語部門・ポスター部門)

注 本文記載以外の後援団体：全国都市教育長協議会、全国町村教育長会、全国連合小学校長会、全日本中学校長会、全国高等学校長会、全国特別支援学校長会、日本私立小学校連合会、日本私立中学高等学校連合会、等

まず、マインドマップを書かせ、自分たちの考えを整理させました。その後、グループに分かれて自分の体験を話し合いました。体験を話し合うことで良かったことは、普段、携帯電話やパソコンを使わない生徒にもセキュリティや個人情報に関する考えの足掛かりができたこと、そして生徒同士で話し合うことで、セキュリティや個人情報に関して怖かった体験や、気を付けなければならないことを、よりリアルに共有できていたことです。

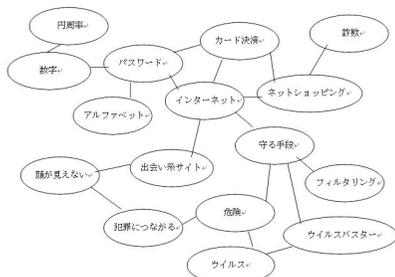


図2 マインドマップ

## (2) クラスのコミュニケーションツールにもなる

埼玉県 和光国際高等学校

情報セキュリティの指導というと、とにかく堅くなりがちですが、夏休み明けには品評会を開き、内容のある作品にはクラスのみんで認め合い、面白おかしい作品はクラスのみんで笑い合う、そのような雰囲気の中で授業を行っています。

## (3) とても身近なニュース

熊本学園大学付属高等学校

作品を投影し、生徒に説明させることで、「なぜこのようなことが起きたのか」「問題が起こらないようにするためにはどうしたらよいか」などの意見交換も行った。「それってお前のことだろ?」「実体験ですか?」という突っ込みもあった。より身近なところで起きていることがわかり、生徒も他人事ではないという意識を持った。

## (4) 年中行事と夏休みの課題

長崎北陽台高等学校

パソコン教室に、ポスター掲示をし、受賞作品を見る機会を作り、年間通して指導する情報モラルのきっかけとして役立っています。

情報機器の楽しさを知りだした生徒に、情報モラルの話をし、夏休みの課題として、標語提出の

話をします。夏休みに、携帯を触る時間が増えると思いますので、良いタイミングの募集期間だと思います。

これまで、夏休みの課題として活用していただけるよう、作品の募集開始を6月初旬に設定し、ご案内をしてまいりました。しかし、カリキュラムは年度の初めには決定済みであり、この時期の案内では取り入れることができない、という現場からのご意見を頂戴することがありました。

そこで、来年度は4月から9月までの募集期間とし、今年度中にコンクール開催のご案内を行うことにいたしました。

## ○来年度のコンクールサイト

<http://www.ipa.go.jp/security/event/hyogo/2013/>

より多くの学校に採用していただくことが、より多くの子どもたちのセキュリティ意識向上に繋がると考え、これからもIPAはできる限り学校現場の実情に合わせて改善を行ってまいります。

## 3. 4 コマ漫画部門の新設

昨年度のコンクールでは、4コマ漫画作品を特別枠として募集しましたが、今年は正式な部門に昇格させました。標語やポスターでは表現が困難な「ストーリー性」や「オチ」によって、メッセージを訴えた作品が多く寄せられました。初めての最優秀作品に選ばれた4コマ漫画をご紹介します。



茨城県 ひたちなか市立  
平磯中学校3年 根本玲乃さん

図3 4コマ漫画部門の最優秀作品

#### 4. 本コンクールの役割

今年度のコンクールは、後援団体の皆様のご協力を賜り、多くの作品を集めることができました。これは、私どもIPAだけでは成し得なかったものと考えております。

これからも各教育関連団体の皆様にご支援をいただき、コンクールを継続して開催していくことで、インターネット犯罪に巻き込まれる生徒の減少に繋がられるよう努めてまいります。

今年度、初めて教育委員会を対象にコンクールに関するアンケートを実施させていただきました。その中で「本コンクールに期待する点」をお伺いしたところ、回答は以下の通りとなりました。

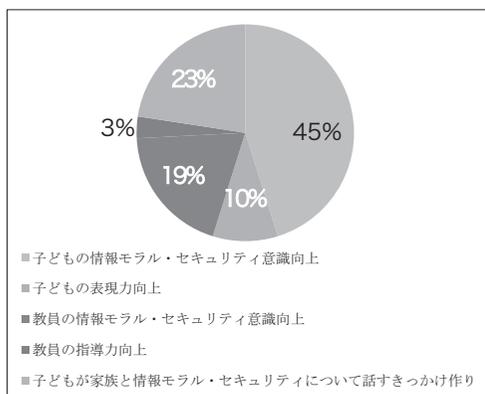


図4 アンケート結果

このように、このコンクールは、子どもたちの情報モラル・セキュリティ意識向上だけではなく、教員の方々の意識向上も期待されていることがわかりました。

頭が柔軟な子どもたちに比べ、大人は新しい機器に慣れたり、情報を取り入れたりすることがどんどん困難になっていきます。そのような状況にも関わらず、生徒へタイムリーで的確な指導を行うのは決して簡単なことではないでしょう。

情報モラル・セキュリティ教育の進め方を模索されている場合には、本コンクールと連携した  
・IPA情報モラルと情報セキュリティ教室  
・情報セキュリティ美術館—コンクール受賞作品のパネル無償貸し出し—  
のご利用をご検討ください。目先を変えた授業や

イベントによって、生徒のみなさんに情報モラル・セキュリティに触れる機会を持っていただけるものと考えています。

#### IPA情報モラルと情報セキュリティ教室

情報セキュリティの専門家である「セキュリティの匠」が皆様の学校に訪問して、情報モラルやセキュリティを子どもたち・保護者・教職員向けにわかりやすく説明します。

「セキュリティの匠」は情報セキュリティの専門家である、株式会社シマンテック、トレンドマイクロ株式会社、マカフィー株式会社、そしてIPAが務めます（2012年12月現在）。

#### 情報セキュリティ美術館

情報セキュリティに関連するイベントや、情報モラル教育の教材として、教育機関や企業・団体へ貸出を行います。児童・生徒はもちろん、先生方や保護者のみなさんにとっても、作品に触れ、情報セキュリティを考える機会にしていいただければと思います。

また、IPAでは、警察庁、総務省および経済産業省が民間事業者等とともに設置した不正アクセス防止対策に関する意見集約委員会（官民ボード）のメンバーとして、官・民の各組織が公開する情報セキュリティ普及啓発関連資料を集約したポータルサイト「ここからセキュリティ！」を公開いたしました。情報セキュリティの対策を始めた人、セキュリティについて教育する人、セキュリティに関する現状を把握したい人、など様々な人にご利用いただける情報を掲載しております。

例えば、「教育・学習」のページでは、中高生向けのカテゴリで身の回りにある危険性を伝える動画や、どのように対策を行えば良いのか、などの資料をご紹介しているほか、「セキュリティチェック」のページで、クイズやゲームを通して、情報モラル・セキュリティを学べるコンテンツも掲載しております。新しい情報を見つけるツールとして是非ご利用ください。

○ここからセキュリティ！URL

<http://www.ipa.go.jp/security/kokokara/>